

**(注意) このPDFファイルを印刷して出願に用いることはできません。**

募集要項および過去3年間の試験問題の請求方法は「窓口での請求」または「郵送による請求」となります。  
出願を希望する方は、必ず募集要項の冊子を入手し、綴じ込みの所定用紙を用いてください。

○ 窓口での請求

府中地区事務部学生支援室入学試験係（農学部本館1F）の窓口にて配布します。ご自由にお持ちください（土日、祝日を除く8:30～17:15まで）

○ 郵送による請求

1. 学生募集要項のみの請求

封筒の表面に「農学府修士課程学生募集要項請求」と朱書きの上、以下を同封して請求してください。

- 郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入したメモ
- 定形外郵便物規格内250g分の切手を貼った返信用封筒（角2号・A4サイズ）

2. 学生募集要項と過去3年間の試験問題のコピー

封筒の表面に「農学府修士課程学生募集要項および試験問題コピー請求」と朱書きの上、以下を同封して請求してください。

- 郵便番号、住所、氏名、電話番号、志望プログラム名を記入したメモ
- 定形外郵便物規格内500g分の切手を貼った返信用封筒（角2号・A4サイズ）

3. 過去3年間の試験問題のコピー

封筒の表面に「農学府修士課程試験問題コピー請求」と朱書きの上、以下を同封して請求してください。

- 郵便番号、住所、氏名、電話番号、志望プログラム名を記入したメモ
- 定形外郵便物規格内150g分の切手を貼った返信用封筒（角2号・A4サイズ）

◆ 速達を希望する場合は速達料金を追加してください。

◆ 返信用封筒の表面に返信先の郵便番号、住所、氏名を記載してください。

◆ 切手不足の場合、請求の受領、請求物を送付することができません。十分に注意してください。

○ 過去3年間の試験問題のコピーについて

著作権処理の関係上、著作権に係る箇所を空白にして配布しています。

なお、過去3年間の試験問題全文は入学試験係窓口で閲覧可能です（写真撮影不可）。

【請求先および問い合わせ先】

〒183-8509

東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学 府中地区事務部学生支援室入学試験係

TEL: 042-367-5659（土日、祝日を除く9:00～17:00まで）

2025年10月入学

2026年4月入学

東京農工大学大学院農学府

修士課程

# 学 生 募 集 要 項

(社会人特別選抜を含む)

東京農工大学

# 重 要

本要項に記載した情報は令和7年（2025年）4月時点の内容です。

本要項の公開後であっても、選抜方法や日程に変更が生じる可能性があります。

出願にあたっては、必ず本学ホームページにて最新の情報を確認してください。

【本学ホームページ「重要なお知らせ」URL 及び QR コード】

[https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi\\_daigakuin/info/](https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/info/)





**2025年10月入学・2026年4月入学**  
**東京農工大学大学院農学府修士課程学生募集要項**  
**(社会人特別選抜を含む)**

**入学生募集の基本方針（アドミッション・ポリシー）**

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、農学府は、以下のような人材を求める。

1. 幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力を合わせもち、高い倫理性を身につけた者。
2. 地域社会や国際社会における食料・生命・資源・環境など様々な問題に関心を持ち、研究を通じて、主体的に考え、他の人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
3. 人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定する事ができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
4. 日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

**1. 募集人員**

専攻名	コース名	プログラム名	入学定員	募集人員		
				2025年 10月入学	2026年 4月入学	
農学 専攻	生物生産科学コース	生物生産科学プログラム	174人	募集 しない	27人	
		生物制御科学プログラム			20人	
	応用生命化学コース	応用生命化学プログラム			30人	
	自然環境資源コース	環境資源物質科学プログラム			11人	
		物質循環環境科学プログラム			17人	
		自然環境保全学プログラム			19人	
	食農情報工学コース	食農情報工学プログラム			若干名	10人*
	地球社会学コース	地球社会学プログラム			募集しない	12人
国際イノベーション 農学コース	国際イノベーション 農学プログラム	若干名	28人*			

※食農情報工学プログラム、国際イノベーション農学プログラムの10月入学を含む

**2. 出願資格**

〔一般選抜〕

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び入学する月（10月又は4月）の前までに卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び入学する月（10月又は4月）の前までに学位授与見込みの者。
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び入学する月（10月又は4月）の前までに修了見込みの者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び入学する月（10月又は4月）の前までに修了見込みの者。
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び入学する月（10月又は4月）の前までに修了見込みの者。
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は

関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに修了見込みの者。

※出願資格の(6)に該当する者は、2025年6月16日(月)までに府中地区事務部学生支援室入学試験係へ必ず申し出てください。

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び入学する月(10月又は4月)の前までに修了見込みの者。

(8) 文部科学大臣の指定した者。(昭和28年文部省告示第5号に該当する者)

(9) 本学府が、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学する月(10月又は4月)の前までに22歳に達する者。

(10) 2026年3月31日現在において、学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学し、本学府が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者、又は外国で学校教育における15年の課程を修了し、本学府が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。(4月入学のみ)

(注1) 大学卒業までに学校教育における16年以上の課程を有しない国の出身者等(出願資格(6)は除く)については出願審査を行うので、2025年6月18日(水)～6月25日(水)までに府中地区事務部学生支援室入学試験係へ必ず申し出てください。

(注2) (9)・(10)によって出願する者は、「出願資格(9)について」(P.11)又は「出願資格(10)について」(P.12)を参照してください。出願期間が異なりますので注意してください。

(注3) その他出願資格について不明な点は事前に府中地区事務部学生支援室入学試験係にお問い合わせください。

(注4) 一般選抜における出願資格(1)、(2)に該当する者のうち、食農情報工学コース食農情報工学プログラムを志望する2026年3月卒業見込みの者は、筆答試験免除を志望することができる。ただし、本学府修士課程への入学を第一志望とする者に限る。筆答試験免除志望者は、志望指導教員へ事前に連絡すること。

### 〔社会人特別選抜〕

出願時において国公立の研究機関・試験場・教育機関等や民間企業の試験・研究機関等における2年以上の研究・試験実績等を有する者で、上記(1)から(8)のいずれかに該当する者。

## 3. 出願期間

**窓口受付期間** 2025年7月23日(水)～7月25日(金)

受付時間 7月23日(水)・7月24日(木)は午前10時から正午、午後1時30分から午後4時まで  
7月25日(金)は午前10時から正午、午後1時30分から午後3時まで

※筆答試験免除を志望するものは、2025年6月2日(月)、3日(火)に出願すること。

**郵送受付期間** 2025年7月7日(月)～7月25日(金)午後3時必着

(出願期間後に本学に到着した場合でも2025年7月23日(水)以前の日本国内発信局消印のある簡易書留の郵便に限り受理します。)

## 4. 出願手続

出願者は次のように出願手続を行い、受験票の交付を受けてください（郵送の場合の受験票は手続完了次第送付します）。

### (1) 出願方法

志願者は下記の出願書類等を取りそろえ、持参又は郵送で提出してください。なお、郵送する際は必ず簡易書留とし、封筒の表に「大学院農学府出願書類在中」と朱書きしてください。

また、日本国外から出願する際は、必ず国際スピード郵便（EMS）で郵送してください。

### (2) 出願書類等提出先：東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 TEL 042-367-5659

### (3) 提出書類及び検定料（全プログラム共通）

提出書類等	注 意 事 項
入学志願票・写真票・受験票・入学検定料納付確認票	本学所定用紙を使用。写真は無帽上半身縦4.5cm×横3.5cm。出願前3ヶ月以内に撮影したものを写真票の所定の位置に貼り付けてください。
履 歴 書	本学所定用紙を使用
志 望 理 由 書	本学所定用紙を使用
成 績 証 明 書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
卒業（見込）証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
検定料（本学所定の入学検定料払込用紙により払込）	入学検定料30,000円：本学所定の入学検定料払込用紙で郵便局で払込みのうえ、受付局日附印が押された「振替払込受付証明書」を「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付けてください。なお、「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。ただし、日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は納入不要です。（注意）「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認しますので、入学検定料の納付は郵便局の受付窓口での払込に限ります。（ATMは使用不可。）
宛 名 票	本学所定用紙を使用。合格通知を受け取る場合の住所、氏名等（3ヶ所）を記入してください。
返 信 用 封 筒 （郵送出願者のみ）	定型封筒（長形3号 12cm×23.5cm）。郵送で出願する場合は、受験票返送用として住所、氏名を明記し、郵便切手410円を貼り付けたものを同封してください。 【8月1日までに、受験票が届かない場合は、上記入学試験係に連絡してください。】
そ の 他	①外国人の場合には、「パスポートのコピー」と「在留カードのコピー」（国内居住者のみ）を必ず提出してください。 ②証明書の氏名と現在の氏名が異なっている場合には、氏名変更を証明するもの（戸籍抄本等）を提出してください。 ③日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は国費外国人留学生証明書を提出してください。（ただし、本学在籍者は不要です。）

(注) 1. 本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

### (4) 外部試験のスコアシートなどの提出

以下のプログラムを受験する者は提出してください。

スコアシートは外国語試験の答案として扱います。試験当日にスコアシートを忘れた場合または提出できない場合は、採点不可（0点）となります。

プログラム名	提出書類および注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物生産科学プログラム</li> <li>・生物制御科学プログラム</li> <li>・環境資源物質科学プログラム</li> <li>・自然環境保全学プログラム</li> <li>・食農情報工学プログラム</li> <li>・地球社会学プログラム</li> </ul>	<p>下記いずれかのスコアシートの原本（入学試験日から起算して過去2年以内のもの、かつ試験実施団体から郵送される成績証明書）※とコピーの両方を提出してください。</p> <p>※ TOEIC の場合は証明書（紙）の原本または Digital Official Score Certificate（デジタル公式認定証）を印刷したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEIC L &amp; R-IP テスト</li> <li>・ TOEIC L &amp; R 公開テスト</li> <li>※ TOEIC L&amp;R IPテスト（オンライン）のスコアシートは受け付けません。</li> <li>・ TOEFL-ITP</li> <li>・ TOEFL-iBT</li> <li>・ TOEFL iBT Home Edition</li> <li>※ TOEFL-ITP（テストデジタル版）のスコアシートは受け付けません。</li> <li>・ 実用英語技能検定（生物制御科学プログラムのみ）</li> </ul> <p>※地球社会学プログラムを受験する外国人志願者は、上記の外部英語試験以外に下記の外部日本語試験のいずれか（ただし日本語能力試験については合格通知に限る）のコピーを提出できます。</p> <p>（出願時からさかのぼり過去4回実施で最も成績のよいもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語能力試験の成績証明書</li> <li>・ 日本留学試験（日本語）の成績証明書または成績確認書</li> </ul> <p>提出日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、自然環境保全学プログラム、食農情報工学プログラム、地球社会学プログラムは、試験初日の専門科目終了後に原本とコピーの両方を提出してください。なお、地球社会学プログラムを受験する外国人志願者が日本語試験のコピーを提出する場合は出願時に提出してください。</li> <li>・ 環境資源物質科学プログラムは、出願時にコピーを提出し、試験初日の専門科目終了後に原本を提出してください。</li> </ul> <p>※原本は2日目の試験終了後に返却します。</p>

(5) 社会人特別選抜については、上記書類(3)、(4)のほかに、下記の書類を提出してください。

提出書類等	注 意 事 項
在 職 証 明 書	<p>（様式任意） 出願時までに国公立の研究機関・試験場・教育機関等や民間企業の試験・研究機関等における2年以上の研究・試験実績等を有する者であることの内容を記した勤務先の長（任命権者又はこれに準ずる者）による証明書</p>
受 験 許 可 書	<p>（様式任意） 在職のまま受験することを承諾した旨を記した勤務先の長（任命権者又はこれに準ずる者）による証明書</p>
研 究 計 画 書	<p>本学所定用紙を使用。 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を13～23ページを参照のうえ、必ず記入してください。</p>

(注) 1. 本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

(6) 志望教育研究分野・志望する研究主指導教員について

13～23ページを参照し、志望する指導教員に連絡し、事前に承諾を得てください。

教育研究分野の詳細や教員の連絡先は、本学ホームページを参照してください。

- ・ 農学府： [https://www.tuat.ac.jp/department/graduate\\_school/nougakuhu/](https://www.tuat.ac.jp/department/graduate_school/nougakuhu/)
- ・ 研究者情報検索： <https://www.tuat.ac.jp/research/researcher/>

## 5. 注意事項

- (1) 出願にあたっては、志望する指導教員に連絡し、事前に承諾を得てください。
- (2) 受験者は、学力検査当日に必ず本学から交付した受験票を持参してください。



- (3) 学生募集に関する照会は、東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係で受け付けます。
- (4) 出願手続き終了後は、提出書類の変更は出来ないため記載事項等を十分確認のうえ提出してください。
- (5) 検定料の払い戻しはしません。

※心身に障害がある者で受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、必ず7月11日（金）までに府中地区事務部学生支援室入学試験係へ問い合わせてください。

## 6. 選抜方法

### 〔一般選抜〕

出願書類（志望理由書、出身学校の成績証明書）の内容、学力検査および口述試験の結果を総合して選抜します。口述試験は、志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、自然環境保全学プログラム、食農情報工学プログラム、地球社会学プログラムは、外国語（英語）の筆記試験は実施しません。（外部試験のスコアシートを利用します）

環境資源物質科学プログラムは、外部試験のスコアシートの提出と共に、外国語（英語）の筆記試験を実施します。

### 学力検査

方法・試験科目 プログラム	筆 記 試 験		口述試験														
	外国語	専 門 科 目	専 門 科 目														
生物生産科学 プログラム		1. 専門基礎科目 植物問題系（2題）、動物問題系（2題）、微生物・分子細胞生物学問題系（2題）、化学問題系（2題）、機器分析化学問題系（1題）の合計9題から解答時に2題を選択してください。但し、各問題系から選択できる問題数は1題のみです。 2. 志望する教育研究分野の試験科目から1科目を下表より出願時に選択してください。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>教育研究分野</th> <th>試験科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産環境科学</td> <td>土壌学、植物栄養学、作物栽培学、家畜生産技術学</td> </tr> <tr> <td>植物生産科学</td> <td>作物学、園芸学、植物育種学</td> </tr> <tr> <td>動物生産科学</td> <td>畜産学、蚕糸学、動物生理化学</td> </tr> </tbody> </table>	教育研究分野	試験科目	生産環境科学	土壌学、植物栄養学、作物栽培学、家畜生産技術学	植物生産科学	作物学、園芸学、植物育種学	動物生産科学	畜産学、蚕糸学、動物生理化学	志望教育研究分野についての適性、その他。						
教育研究分野	試験科目																
生産環境科学	土壌学、植物栄養学、作物栽培学、家畜生産技術学																
植物生産科学	作物学、園芸学、植物育種学																
動物生産科学	畜産学、蚕糸学、動物生理化学																
生物制御科学 プログラム		1. 専門基礎科目 植物問題系（2題）、動物問題系（2題）、微生物・分子細胞生物学問題系（2題）、化学問題系（2題）、機器分析化学問題系（1題）の合計9題から解答時に2題を選択してください。但し、各問題系から選択できる問題数は1題のみです 2. 専門科目：下表より志望教員が担当する試験科目1科目を出願時に選択してください。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>指導教員</th> <th>試験科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有江力、小松健</td> <td>植物病理学</td> </tr> <tr> <td>川出洋、岩上哲史</td> <td>生物制御化学</td> </tr> <tr> <td>福原敏行、森山裕充</td> <td>細胞分子生物学</td> </tr> <tr> <td>笠原博幸</td> <td>応用植物生化学</td> </tr> <tr> <td>仲井まどか</td> <td>応用遺伝生態学</td> </tr> <tr> <td>井上真紀</td> <td>相関分子生物学</td> </tr> </tbody> </table>	指導教員	試験科目	有江力、小松健	植物病理学	川出洋、岩上哲史	生物制御化学	福原敏行、森山裕充	細胞分子生物学	笠原博幸	応用植物生化学	仲井まどか	応用遺伝生態学	井上真紀	相関分子生物学	志望教育研究分野についての適性、その他。
指導教員	試験科目																
有江力、小松健	植物病理学																
川出洋、岩上哲史	生物制御化学																
福原敏行、森山裕充	細胞分子生物学																
笠原博幸	応用植物生化学																
仲井まどか	応用遺伝生態学																
井上真紀	相関分子生物学																

方法・試験科目	筆記試験		口述試験																				
プログラム	外国語	専門科目	専門科目																				
応用生命化学プログラム	英語	専門科目 物理・分析化学、有機化学、生化学（分子生物学を含む）、細胞生物学の4科目から解答時に3科目を選択してください。各科目の出題範囲については、応用生命化学プログラムのホームページ <a href="http://web.tuat.ac.jp/~lifesci/">http://web.tuat.ac.jp/~lifesci/</a> で公表します。	志望教育研究分野についての適性、その他。																				
環境資源物質科学プログラム	英語	下表より1科目を出願時に選択してください。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">教育研究分野</th> <th style="width: 50%;">試験科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境資源材料科学</td> <td>住環境材料加工学、木質構造学</td> </tr> <tr> <td>資源機能制御学</td> <td>資源複合機能学、植物バイオマス化学、生分解制御学、バイオマス構造機能学、木質資源特性科学、再生資源科学</td> </tr> </tbody> </table>	教育研究分野	試験科目	環境資源材料科学	住環境材料加工学、木質構造学	資源機能制御学	資源複合機能学、植物バイオマス化学、生分解制御学、バイオマス構造機能学、木質資源特性科学、再生資源科学	志望教育研究分野についての適性、その他。														
教育研究分野	試験科目																						
環境資源材料科学	住環境材料加工学、木質構造学																						
資源機能制御学	資源複合機能学、植物バイオマス化学、生分解制御学、バイオマス構造機能学、木質資源特性科学、再生資源科学																						
物質循環環境科学プログラム	英語	1. 専門基礎科目 環境科学に関する生物学と化学の知識及び理解を問います。 2. 専門科目 志望する教育研究分野について、必要な知識及び理解力を有するかを問います。	志望教育研究分野についての適性、その他。																				
自然環境保全学プログラム		下表より志望教員の担当する専門科目1科目を含む2科目を解答時に選択し、解答してください。ただし、志望教員が担当しない科目の点数は0.5を乗じたうえで評価に用います。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指導教員</th> <th style="width: 50%;">試験科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吉川正人</td> <td>植生管理学</td> </tr> <tr> <td>金子弥生、鈴木馨、高田隼人、諸澤崇裕</td> <td>野生動物保全学</td> </tr> <tr> <td>下田政博</td> <td>健康アメニティ科学</td> </tr> <tr> <td>赤坂宗光、岩井紀子</td> <td>保全生態学</td> </tr> <tr> <td>小池伸介、吉田智弘</td> <td>森林保護学</td> </tr> <tr> <td>加用千裕</td> <td>森林経営学</td> </tr> <tr> <td>戸田浩人、崔東壽</td> <td>森林生態学</td> </tr> <tr> <td>白木克繁</td> <td>山地保全学</td> </tr> <tr> <td>岩岡正博、松本武、オンウォナ アジマン シアウ</td> <td>森林利用システム学</td> </tr> </tbody> </table>	指導教員	試験科目	吉川正人	植生管理学	金子弥生、鈴木馨、高田隼人、諸澤崇裕	野生動物保全学	下田政博	健康アメニティ科学	赤坂宗光、岩井紀子	保全生態学	小池伸介、吉田智弘	森林保護学	加用千裕	森林経営学	戸田浩人、崔東壽	森林生態学	白木克繁	山地保全学	岩岡正博、松本武、オンウォナ アジマン シアウ	森林利用システム学	自然環境保全学についての適性、その他。
指導教員	試験科目																						
吉川正人	植生管理学																						
金子弥生、鈴木馨、高田隼人、諸澤崇裕	野生動物保全学																						
下田政博	健康アメニティ科学																						
赤坂宗光、岩井紀子	保全生態学																						
小池伸介、吉田智弘	森林保護学																						
加用千裕	森林経営学																						
戸田浩人、崔東壽	森林生態学																						
白木克繁	山地保全学																						
岩岡正博、松本武、オンウォナ アジマン シアウ	森林利用システム学																						
食農情報工学プログラム		下表から3科目を解答時に選択してください。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">試験科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材料・構造力学、農業・農産機械学、土質力学、土壌物理学、農村計画学、水理学、かんがい排水工学、空間情報学</td> </tr> </tbody> </table>	試験科目	材料・構造力学、農業・農産機械学、土質力学、土壌物理学、農村計画学、水理学、かんがい排水工学、空間情報学	志望教育研究分野についての適性、その他。																		
試験科目																							
材料・構造力学、農業・農産機械学、土質力学、土壌物理学、農村計画学、水理学、かんがい排水工学、空間情報学																							

方法・試験科目	筆記試験		口述試験																						
プログラム	外国語	専門科目	専門科目																						
地球社会学プログラム		以下の点に留意し、下表より2科目を選択してください。 第1選択科目：志望教員の担当する科目を出願時に選択する。 第2選択科目：解答時に選択する。 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>指導教員</th> <th>試験科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>甲田菜穂子</td><td>共生福祉論</td></tr> <tr><td>高橋美貴</td><td>環境文化史</td></tr> <tr><td>澤佳成</td><td>環境哲学</td></tr> <tr><td>竹本太郎</td><td>農村社会学</td></tr> <tr><td>大倉茂</td><td>環境倫理学</td></tr> <tr><td>榎本弘行</td><td>環境公法</td></tr> <tr><td>吉田央</td><td>環境経済・政策学</td></tr> <tr><td>新井祥穂、曲木若葉</td><td>農業経済学</td></tr> <tr><td>草処基</td><td>農業経営・生産組織学</td></tr> <tr><td>観山恵理子</td><td>農業市場学</td></tr> </tbody> </table>	指導教員	試験科目	甲田菜穂子	共生福祉論	高橋美貴	環境文化史	澤佳成	環境哲学	竹本太郎	農村社会学	大倉茂	環境倫理学	榎本弘行	環境公法	吉田央	環境経済・政策学	新井祥穂、曲木若葉	農業経済学	草処基	農業経営・生産組織学	観山恵理子	農業市場学	志望教育研究分野についての適性、その他。
指導教員	試験科目																								
甲田菜穂子	共生福祉論																								
高橋美貴	環境文化史																								
澤佳成	環境哲学																								
竹本太郎	農村社会学																								
大倉茂	環境倫理学																								
榎本弘行	環境公法																								
吉田央	環境経済・政策学																								
新井祥穂、曲木若葉	農業経済学																								
草処基	農業経営・生産組織学																								
観山恵理子	農業市場学																								
国際イノベーション農学プログラム	英語	志望教育研究分野の専門科目のうち、解答時に2題を選択し解答してください。	志望教育研究分野に関する適性、その他。																						

志願者は、出願時に選択する筆記試験科目については、受験する科目を入学志願票等の所定欄に記載してください。

#### 〔社会人特別選抜〕

出願書類（志望理由書、出身学校の成績証明書）の内容、学力検査および口述試験の結果を総合して選抜します。口述試験は、志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、自然環境保全学プログラム、食農情報工学プログラム、地球社会学プログラムは、外国語（英語）の筆記試験は実施しません。（外部試験のスコアシートを利用します）

環境資源物質科学プログラムは、外部試験のスコアシートの提出と共に、外国語（英語）の筆記試験を実施します。

#### 学力検査

英語及び口述試験（口述試験は、研究計画に関する質疑を含みます。）

#### 〔筆答試験免除による入試（食農情報工学コース食農情報工学プログラムのみ）〕

出願書類（志望理由書、出身学校の成績証明書）の内容および口述試験を総合して選抜します。口述試験は志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

なお、筆答試験免除による選抜の合格者は募集人員の半数程度とします。

①筆答試験免除を志望する場合には、成績証明書に基づき筆答試験免除の資格判定を行います。有資格と判定された者は③の口述試験を受験してください。

有資格者とならなかった者は、〔一般選抜〕を受験することができます。

#### ②資格判定の結果

本学農学部 に在学する者は 志望プログラムから6月中旬に通知します。

本学農学部 に在学する者以外は6月中旬に本人宛に郵送します。

③口述試験 2025年7月上旬 場所 本学府中キャンパス

④口述試験の結果については、2025年7月中旬に発送します。

この結果、合格内定とならなかった者は、〔一般選抜〕を受験することができます。

⑤合格者は、2025年9月12日（金）午後10時に〔一般選抜〕の合格者と併せて発表します。

## 7. 試験科目・日時及び場所

### 〔一般選抜〕

期日・時間 プログラム	2025年8月28日（木）		2025年8月29日（金）
	午前10時～12時	午後1時30分～4時	午前10時～午後
生物生産科学 プログラム	実施しません	専門科目	専門科目（口述試験）
生物制御科学 プログラム			
応用生命化学 プログラム	英語		
環境資源物質科学 プログラム			
物質循環環境科学 プログラム	実施しません		
自然環境保全学 プログラム			
食農情報工学 プログラム			
地球社会学 プログラム	英語		
国際イノベーション 農学プログラム			
場 所	東京農工大学大学院農学府		

### 〔社会人特別選抜〕

期日・時間 プログラム	2025年8月28日（木）	2025年8月29日（金）
	午前10時～12時	午前10時～午後
生物生産科学 プログラム	実施しません	口述試験
生物制御科学 プログラム		
応用生命化学 プログラム	英語	
環境資源物質科学 プログラム		
物質循環環境科学 プログラム	実施しません	
自然環境保全学 プログラム		
食農情報工学 プログラム		
地球社会学 プログラム	英語	
国際イノベーション 農学プログラム		
場 所	東京農工大学大学院農学府	

## 8. 合格発表

合格者を2025年9月12日（金）午前10時、東京農工大学大学院農学府ホームページ（[https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi\\_daigakuin/goukaku\\_daigakuin/](https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/goukaku_daigakuin/)）に3日間掲載します。

また、合格者には合格通知を本人に郵送します。なお、電話での問い合わせには一切応じません。

## 9. 入学手続

### (1) 入学手続日

2025年10月入学者：2025年9月22日（月）

2026年4月入学者：2026年3月16日（月）

入学手続き方法：入学手続き方法の詳細および必要書類については、2025年10月入学者は合格通知郵送時に、2026年4月入学者は2026年1月下旬頃に本人に郵送しますので、それに従ってください。

所定の時期までに入学手続き書類が届かない場合は、東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係にまでご連絡ください。

電話（直通）042-367-5659

留意事項：入学手続日までに入学金の納付（免除等申請者は除く）および入学書類の提出がない場合は入学の意思がないものとして取り扱います。また、入学手続日翌日以降に入学の意思を示しても、事務手続き上、入学を受け付けることはできません。

### (2) 入学に要する費用等

①入学料 282,000円

②授業料（前期分）321,480円（後期分）321,480円

（注）入学料、授業料の金額は改定されることがあります。なお、在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

## 10. 社会人特別選抜入学制度利用者の履修情報

社会人特別選抜入学制度によって、本学府に入学した学生は、原則として通常の時間帯における科目を履修するものとしますが、プログラムが教育上特別な必要性を認めた場合は、大学院設置基準第14条に示される教育方法の特例（規定）に基づいて単位を取得することができます。

## 11. 個人情報の取り扱い

出願書類に記載されている氏名、性別、住所その他の個人情報（入試成績に関する情報を含む）は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」および「国立大学法人東京農工大学個人情報の保護に関する規程」に基づき、本学において、入試の実施・入学手続、入学者の受入準備、奨学金等の制度の運用、統計資料等の作成及び入試に関する調査・研究に利用します。

また、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがない場合に限り、提供することがあります。

(1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。

(2) 行政機関（行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律第2条第1項に規定する行政機関）、他の独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人に提供する場合において、提供を受ける者が、法令の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る個人情報を利用し、かつ、利用について相当な理由のあるとき。

(3) 統計の作成又は学術研究の目的のために他の機関に提供するとき。

(4) 本学の業務を行うために、個人情報の電算処理を外部に委託する場合、個人情報の提供が必要なとき。（なお、この場合には、個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の事項を明記の上契約します。）

## 12. 安全保障輸出管理について

東京農工大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人東京農工大学安全保障輸出管理規程」を定め、学生の受入れに際し厳格な審査を行っています。

規制事項に該当する場合には、本学から経済産業省への許可申請が必要となり、すぐに教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。

また、本学からの許可申請について、経済産業省が国際平和・安全の維持の観点から不許可とした場合、結果的に本学での教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。

## 13. 試験問題の公表について

過去3年間の試験問題を公開しています。詳細は本学ホームページ

([https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi\\_daigakuin/seikyu/nougakuhu.html](https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/seikyu/nougakuhu.html))にてご確認ください。

## 14. 入学者選抜の情報公開に関する問い合わせ先

入学者選抜に関しては東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係までお問い合わせください。

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 TEL 042-367-5659

〔問い合わせ先〕

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係  
電話（直通）042-367-5659 【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】

## 出願資格（9）について

(1) この出願資格の認定については、事前審査によって行いますので、次の書類を事前審査申請書類受付期間中に府中地区事務部学生支援室入学試験係に提出してください。

審査は、書類及び口述で行います。レポートは、審査の参考資料として扱います。（口述は実施しない場合もあります。）

### 提出書類

入学試験出願資格事前審査申請書	本学所定用紙を使用
履歴書	本学所定用紙を使用
最終出身学校の卒業（見込）証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
最終出身学校の成績証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
レポート	課題「出願動機と志望プログラムに関わる抱負」又は、「卒業研究、課題研究、又はそれと同程度の研究報告書等の要旨」（字数2000字程度、書式A4判レポート用紙）
返信用封筒	住所、氏名及び郵便番号を明記し、410円切手を貼付した定型封筒（長形3号 12cm × 23.5cm）

（注）本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

(2) 事前審査申請書類受付

受付期間 2025年6月18日（水）～6月25日（水）午後3時まで

受付場所 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係

〒183-8509 府中市幸町3-5-8

郵送の場合は簡易書留とし、「事前審査申請書類在中」と朱書きし、上記期間内に到着するように郵送してください（期間内必着）。

(3) 口述審査（実施しない場合もあります。）

日程 2025年7月1日（火）予定（詳細は事前審査受付後、本人あてに通知します。）

場所 東京農工大学大学院農学府

(4) 事前審査の結果は、2025年7月11日（金）までに本人あてに通知します。

(5) 事前審査の結果、出願資格の認定を受けた者は、出願書類受付期間に出願資格を認定した通知文書のコピーを添付して出願手続を行ってください。

## 出願資格（10）について

- (1) この出願資格の認定は、次のとおり事前審査によって行いますので、次の書類を事前審査申請書類受付期間中に府中地区事務部学生支援室入学試験係に提出してください。

### 提出書類

入学試験出願資格事前審査申請書	本学所定用紙を使用
履歴書	本学所定用紙を使用
志望理由書	本学所定用紙を使用
研究計画書	本学所定用紙を使用（字数1000字程度）
成績証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
在籍大学学部・学科の授業科目要項等	本学在籍者は不要
返信用封筒	住所、氏名及び郵便番号を明記し、410円切手を貼付した定型封筒（長形3号 12cm × 23.5cm）

（注）本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

- (2) 事前審査申請書類受付

受付期間 2025年9月19日（金）～9月26日（金）午後3時まで

受付場所 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係

〒183-8509 府中市幸町3-5-8

郵送の場合は簡易書留とし、「事前審査申請書類在中」と朱書きし、上記期間内に到着するように郵送してください（期間内必着）。

- (3) 事前審査の結果は、2025年10月10日（金）までに本人あてに通知します。

- (4) 事前審査の結果、出願資格の認定を受けた者は、出願書類受付期間に出願資格を認定した通知文書のコピーを添付して出願手続を行ってください。

- (5) 出願書類受付期間

2025年11月4日（火）～11月5日（水）

- (6) 学力検査日

2025年12月4日（木）

- (7) 合格発表

2025年12月12日（金）

- (8) 注意事項

本出願資格に基づき出身の大学を卒業することなく本学府に入学した場合、出身大学は退学する必要があります。この選抜によって、本学府に入学した者の学部生としての学籍上の身分は退学となります。

これによって、学部卒業が要件となる各種資格及び受験資格はなくなりますので十分留意してください。



# 東京農工大学大学院農学府修士課程概要

農学府は、入学生募集の基本方針（アドミッション・ポリシー）に沿った人材を育成するために、農学専攻に生物生産科学、応用生命化学、自然環境資源、食農情報工学、地球社会学および国際イノベーション農学の6コースを構成しています。コース内はさらに9プログラムから構成され、各プログラムには1～4の教育研究分野が設けられています。

本学府では、これらの農学教育研究の各分野において長い伝統と学問的成立に立脚し、基礎的あるいは応用的研究、先端的あるいは総合的・学際的に取り組んでおり、すでに多くの修了者は大学・官公庁・産業界をはじめ日本のみならず海外における研究・技術の発展と開発に大きく寄与しています。

また、本学府は首都の郊外に位置し、四季を通じて豊かな自然の環境に恵まれ、各種研究機関、他大学、学会等との連携にも便利で、研究推進上多くの利点を持っています。

## 1. 各プログラムの各教育研究分野の教育研究の目的、主な授業科目および研究内容

生物生産科学コース						
生物生産科学プログラム						
教育研究の目的	食料生産技術と環境保全の調和、持続的な生物生産の確立、食料自給率向上や安定供給、動植物の生産機能の解明、バイオマス利活用技術の開発等に貢献する能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。					
教育研究分野	生産環境科学		植物生産科学		動物生産科学	
内容	環境と調和した生物生産を通じて安全な食料の供給を実現するため、農業生産をとりまく動植物—昆虫—微生物—土壌などの環境要素を総合的に解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導的人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。		食料の持続生産と効率性・安全性を実現するため、植物について、分子・細胞・個体・個体群の生産機能向上について解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導的人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。		食料の持続生産と効率性・安全性を実現するため、家畜及び有用昆虫について、分子・細胞・個体・個体群の生産機能向上について解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導的人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。	
担当教員と研究内容	伴 琢也	環境要因が園芸作物の成長に及ぼす影響の解明と栽培技術への応用	大川 泰一郎	イネなどの作物における多収・高バイオマス生産および倒伏抵抗性、高温、水ストレス抵抗性に関わる生態生理、遺伝学的性質の解明、および品種改良への適用	青木 康浩	家畜の健康モニタリングに関する研究および生産性と健全性の向上を両立させる飼養管理技術の開発
	杉村 智史	家畜の繁殖技術、特に生育可能な家畜受精卵の生産とその選択および移植に関する研究			新村 毅	動物の行動を分子レベルから集団レベルまで横断的に理解して制御する研究、福祉的管理システムの開発と自動評価・制御技術の開発
	中嶋 紀寛 <sup>*2</sup>	多様な外部環境と放牧家畜の健康性との関係解明に関する研究および耕作放棄地の家畜生産利用に関する技術開発	安達 俊輔	作物のゲノム情報を活用した光合成と物質生産過程の理解ならびに新たな栽培技術や育種素材を開発するための研究	横山 岳 <sup>*4</sup>	突然変異蚕を用いた遺伝学的解析およびモザイク蚕、倍数体蚕、単為発生蚕の誘発とそれらを用いた発生学的解析
					伊藤 克彦	カイコの致死や寿命および罹病性に関わる突然変異遺伝子の単離とその機能を利用した害虫防除への応用

\* 2 印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

\* 4 令和9年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

生物生産科学コース						
プログラム	生物生産科学プログラム					
教育研究分野	生産環境科学		植物生産科学		動物生産科学	
	田中 治夫	土壌生化学的手法を用いた土壌中の有機物動態の解明と土壌生産力の評価	鈴木 栄	組織培養や遺伝子組み換え技術を用いた大量増殖法と品種育成に関する研究	天竺桂弘子	医薬・農業として有用な昆虫由来成分の探索に関する研究、昆虫ゲノム情報を活用したヒト疾患分子機序の解析に関する研究、および家畜飼料としての昆虫の利用に関する研究
	杉原 創	土壌の特性に着目した炭素・窒素・リン循環の解明と、それに基づく土壌資源を持続的に管理する方策の構築	高橋さくら*2	植物工場やハウス内の環境制御による園芸作物の高収量化および高品質化に関する研究		
	大津 直子	植物の窒素や硫黄等の養分吸収や植物体内での代謝の分子機構、及び作物の土壌微生物を利用した養分吸収機構	山田 哲也	オミックス情報に基づき、花の寿命やストレス耐性など、植物の各種形質を支配している遺伝子群を同定し、それらを利用した分子育種技術を開発し、作物の品種改良を効率化する研究	阿部 広明*2	昆虫の性染色体に関する遺伝学的ならびに分子生物学解析およびゲノム上に散在する転移因子の構造解析

\* 2印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

生物生産科学コース				
生物制御科学プログラム				
教育研究の目的	植物、微生物、昆虫などの生物の制御および生物間相互作用に関する研究分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。			
教育研究分野	生物制御科学			
内容	生体分子から細胞、個体、個体群、群集における生物の機能に着目し、分子生物学、分子遺伝学、ゲノム生物学、生化学、天然物化学、生態学、進化生物学の立場から理解し、有害生物の制御や有用物質生産への応用を目的とした教育研究を行う。			
担当教員と研究内容	井上 真紀	昆虫・植物・微生物の生物間相互作用に関する研究	小松 健	植物 RNA ウイルスの病原性発現機構および植物の抵抗性機構に関する研究
	岩上 哲史	農耕地雑草の除草剤抵抗性獲得メカニズムの解明と雑草の進化に関する研究		仲井まどか
	笠原 博幸	植物成長調節物質による植物の成長および環境応答制御機構の解明と応用	森山 裕充	
	川出 洋	生理活性を有する天然有機化合物の生合成研究および生合成酵素エンジニアリングによる有用物質創製		

応用生命化学コース					
プログラム	応用生命化学プログラム				
教育研究の目的	生体分子化学、生理生化学、健康長寿科学などの生命機能を理解し応用する専攻分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。				
教育研究分野	生体分子化学		生理生化学		健康長寿科学
内容	生命機能分子の構造解析・合成・機能改変・有効利用等に関する教育研究を行う。		生理生化学的調節の分子機構の解析・制御、糖鎖やタンパク質の解析、遺伝子の発現制御やポストゲノム解析とこれらを基盤とした医薬・治療法や様々な物質生産への応用に関する教育研究を行う。		老化に伴う認知症や運動・学習能力の低下に伴う介護等、高齢化社会における諸問題に対応するために、医学と農学の両方の立場からその解決法を探るための教育研究を行う。
担当教員と研究内容	北野 克和	生物活性物質の構造活性相関の考察と活性発現機構の解明	三浦 豊	疾病モデルを用いた食品因子の機能検定とその作用機構解析	萬谷 博 <sup>*3</sup> 内田 さえ <sup>*3</sup> 柿澤 昌 <sup>*3</sup> 身体の老化のメカニズム、細胞の老化のメカニズム、高齢者における臓器と老年病の発症病態に関する基礎・応用生物学
	岡田 洋平	生物プロセスに立脚した有機合成化学に関する研究	馬谷 千恵 <sup>*2</sup>	栄養による生殖・行動調節メカニズムの生理学的研究	
	好田 正	食品の免疫調節機構の解明と免疫関連疾患の予防への応用	殿塚 隆史	糖質に作用する酵素の立体構造と機能の解析およびその利用	
	野村 義宏 <sup>*4</sup>	生体高分子の機能に基づいた有効利用	鈴木絵里子	微生物由来の生理活性物質の単離と作用解析 癌幹細胞の分化・増殖制御機構の解析	
	松下 保彦	植物遺伝子発現調節機構の解明	川合 伸也 <sup>*2</sup>	植物代謝産物の生合成制御解析と分子育種	
	佐々木信光	植物と病害微生物との分子間相互作用に関する研究	山形 洋平 <sup>*4</sup> 田中 瑞己	微生物ゲノム情報に基づく遺伝子及びその産物の解析と利用	
	宮田 真路	細胞外マトリクス分子の生理機能と生体材料としての利用価値の創出	宮本 潤基	ヒトの健康増進に寄与する機能性食品素材の探索と分子機序の解明	
	山本 和博	組織破壊の分子・細胞・個体レベルでの理解と応用			

\* 2 印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

\* 3 東京都健康長寿医療センター研究所（連携研究員）

\* 4 令和9年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

自然環境資源コース			
環境資源物質科学プログラム			
プログラム	環境資源物質科学分野において卓越した能力を有する広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。特に資源物質の構造解析や機能、利用技術、環境への影響・負荷の低減化に寄与できる人材を育成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。		
教育研究の目的	環境資源物質科学分野において卓越した能力を有する広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。特に資源物質の構造解析や機能、利用技術、環境への影響・負荷の低減化に寄与できる人材を育成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。		
教育研究分野	環境資源材料学		資源機能制御学
内容	生物資源を中心とした物質の分子レベルから巨視的レベルに至る解析、有機化学反応の機構、有用植物資源の開発及び植物組織構造の解析、植物材料の物性と機能の解析及びその高機能化、資源材料の総合的な高度利用、加工技術及び住環境材料の開発など、資源開発から物理的変換利用までの資源循環利用に関する教育研究を行う。		植物資源の形成、複合化及び化学加工による機能開発、植物繊維特性の解析とその高機能化、資源のリサイクルと再生化の科学と技術、資源の保存技術及び諸材料の生分解機能の解明と制御など、生物資源の形成・機能開発・再生化から分解・廃棄までの資源循環利用に関する教育研究を行う。
担当教員と研究内容	安藤 恵介	住環境で利活用可能な木材を主とする新素材の開発や加工、並びに住環境材料のライフサイクルアセスメント	近江 正陽 堀川 祥生 吉田 誠 半 智史 小瀬 亮太 松下 泰幸
	松原 独歩	高剛性・高耐力性能を発現する木質構造接合部の開発ならびにその性能評価、耐荷機構の解明	廃材などを原料とする木質材料の機能化、住環境を形成する木材の機能評価、未利用植物資源の高度利用 木質バイオマスの微細構造解析と機能解明ならびに細胞壁成分に基づく生物資源の多様性評価 微生物による木質材料生分解機構の解明、およびその機構に基づくバイオマス変換技術の開発と木材保存への応用 木質バイオマスにおける組織構造特性および材料特性の発現機構解明に向けた細胞生物学的解析 植物繊維資源を原料とした高機能性材料の開発ならびに紙パルプの新規用途とリサイクル技術の開発 細胞壁構成成分の化学構造および生合成過程の解析ならびに植物バイオマスを原料とした機能性物質の開発

自然環境資源コース			
プログラム		物質循環環境科学プログラム	
教育研究の目的	環境化学および環境生物学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。		
教育研究分野	環境生物学		環境化学
内容	様々な環境における植物・動物・微生物を通じた物質循環の解明と多様な環境汚染物質が生物に及ぼす影響の解明を生物学的視点から行うことを通じて、生態系の保全・修復に必要な手法の開発に寄与する教育研究を行う。		様々な環境における微量元素、無機物質、有機化合物などの分布とこれらの循環過程、人間活動による物質循環の攪乱の影響を主として化学的手法を用いて解明し、環境の修復、保全に寄与する教育研究を行う。
担当教員と研究内容	多羅尾光徳	微生物食物連鎖を通じた生態系における物質循環の構造と機能に関する研究	渡邊 泉 汚染化学物質、おもに重金属類や生体微量元素・放射性元素の環境動態および野生生物に対する生態毒性の解明
	大地まどか	海洋環境における人工化学物質の動態および水生生物に対する影響の解明	松田 和秀 大気汚染物質の植生への乾性沈着メカニズムの解明とアジア地域における沈着量の評価
	渡辺 誠	大気や土壌環境の変化に対する樹木の生理生態学的応答についての基礎および応用研究	梅澤 有 フィールド調査と実験系研究の両面からの、安定同位体比等の化学分析を基にした水圏生態系の生元素循環・食物網の解明 水川 薫子 人為起源有機化合物の環境動態（分布・発生源・挙動）と体内動態（蓄積・代謝）の解明、およびそのための研究手法の開発

自然環境資源コース				
自然環境保全学プログラム				
プログラム	自然環境保全学プログラム			
教育研究の目的	<p>野生生物、山地・森林、都市および人間を対象にして、自然環境の持続的利用と保護および回復に関わる自然環境保全学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。</p> <p>この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施します。</p> <p>なお、当プログラムでは、学術的な教育研究を一層推進するため、通常の指導体制に加えて、プログラム所属教員が共同で取り組む研究指導体制があります。進学した学生は、希望により生態系管理にかかわる複合的な研究に参画し、プログラム所属教員による集団的な研究指導を受け、修士論文を作成することができます。</p>			
教育研究分野	生態系保全学		森林環境保全学	
内容	<p>多様な自然環境の保全と人間との良好な関係の構築を目指し、野生動植物の分布や生態の把握、人間社会や人間の健康と自然環境の関わり等の説明、自然の保護や管理、回復の理論と方法などの生態系保全に関する教育研究を行います。</p>		<p>森林生態系および山地の生物・土・水といった構成要素において、成因や相互関係を探求して森林環境の形成過程を解明するとともに、森林や山地の環境を人間社会との関わりを含むシステムとしてとらえ、森林資源の持続的利用と森林・山地の保全と回復に関わる科学技術の教育研究を行います。</p>	
担当教員と研究内容	吉川 正人	森林・草原などの植物群落の生態的特性の解明と、その保護・管理のための理論と方法	加用 千裕 平原 俊 <sup>*2</sup>	自然環境の保全と持続的な資源利用による社会・経済・環境効果の解明および保全と利用を両立する管理体制の構築
	金子 弥生 鈴木 馨 高田 隼人 諸澤 崇裕	野生鳥獣の個体群と生息地、保全生態学、救護学など、野生動物の保護と管理のための理論と方法	戸田 浩人 <sup>*4</sup> 崔 東壽	森林立地環境の保全および利用と緑化のための、森林生態系・森林土壌系での物質循環および樹木生理生態の解明
	下田 政博 福本 寛之 <sup>*2</sup>	健康と密接に関係する各種生体情報を手がかりとした、ヒトと自然生態系との健全な共生関係の解明	白木 克繁	山地流域における水循環および土砂の運動機構の解明と、それらに起因する災害の防止・軽減手法
	赤坂 宗光 岩井 紀子	陸域および陸水域に生息する生物種・個体群・群集とそれらを含む広域生態系を保全するための理論と方法	岩岡 正博 松本 武 わかたけ アジマン シアウ	木材やバイオエネルギーなどの資源の効率的利用と、利用による環境負荷を低減するための技術の構築
			小池 伸介 小林 勇太 <sup>*2</sup> 吉田 智弘	鳥獣、昆虫、植物、菌類などの様々な森林生物の相互作用・機能的役割の解明

\* 2 印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

\* 4 令和9年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

食農情報工学コース				
プログラム		食農情報工学プログラム		
教育研究の目的	農学と工学の手法を駆使して、海外も含めた農山村地域の発展に貢献し、持続的食料生産システムや地域環境整備を行う農業環境工学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。			
教育研究分野	地域環境工学		生物生産工学	
内容	都市・農村地域における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図り、農業者を中心においた農村計画、住環境整備について教育研究を行う。		生産性向上と環境保全の問題を同時に解決しうる食糧生産供給システムの構築を目指す知識と技術に関する教育研究を行う。	
担当教員と研究内容	斎藤 広隆	物質移動解析に基づく土壌環境の保全・再生・持続的な利用に関する研究および工学的解析による地盤の安定や防災に関する研究	帖佐 直 渡辺 将央*2	生産環境の計測制御、農産物の品質評価、および数値シミュレーションとデータアナリティクスを基盤技術とした食料生産システムの安全性、自動化・知能化に関連する研究
	西脇 淳子	土壌物理特性に基づく土壌圏での環境影響物質（水、温室効果ガス、化学物質など）の動態把握をもとにした健全な土壌環境維持を目指す研究		
	中島 正裕	中山間地域の活性化と震災復興を目的とした土地利用計画、意志決定支援、および地域資源を活用した材料開発・管理に関する研究	安永円理子	収穫後農産物の流通最適化・食品ロス削減に関する研究
	島本 由麻	構造材料の損傷度評価や植物体の水ストレス診断に関する研究および地域資源を有効活用した材料開発		
	山下 恵	空間情報技術を用いたマルチスケールでの環境モニタリング手法の開発および生態系評価に関する研究		

\* 2印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。



地球社会学コース						
地球社会学プログラム						
プログラム	地球社会学プログラム					
教育研究の目的	農学諸分野の科学技術を理解した上で、人文社会科学に基づく問題発見と分析、課題解決のための企画・課題遂行・調整などに卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため共生人間学・環境社会関係学・食料環境経済学の専門分野における革新的学術研究を併せて実施する。					
教育研究分野	共生人間学		環境社会関係学			
内容	人間と自然（また、人間と人間）の共生のあり方に関する人文社会科学研究 特に、哲学、倫理学、心理学、歴史学、社会学の分野にわたる総合的研究		環境問題を解決し、持続可能な社会を実現するための社会科学研究 特に、社会・教育システム、法制度、経済政策、国際協力の分野にわたる総合的研究			
担当教員と研究内容	高橋 美貴	生業の歴史、地域資源の利用や管理に関わる歴史など、人間と自然の関係にかかわる歴史学的研究	吉田 央	政治経済学の理論研究およびそれを応用した環境問題の分析	草刈 基	発展途上国・移行経済国の農業経営形態の特徴と変容ならびに格差問題に関する研究
	甲田菜穂子	身近な動物と人との関係についての心理・行動研究とその成果を人の福祉の向上に役立てる実践的研究				
	澤 佳成	人間と自然との共生および環境問題の背景に関する、哲学的、人間的、社会思想的研究	榎本 弘行	環境の負荷を防止・低減することを目的とする法である環境法に関する研究	観山恵理子	農産物および食品市場をめぐる流通・加工過程、流通政策、産直や有機農業などに関する社会科学研究
	竹本 太郎	自然資源または自然環境をめぐる農山村の近代化および現代的課題に関する社会学的研究				
	大倉 茂	動物倫理や環境倫理思想史を含む、広義の環境倫理学や倫理学基礎論の研究				

国際イノベーション農学コース

国際イノベーション農学プログラム																												
<b>プログラム</b>	<b>国際イノベーション農学プログラム</b>																											
<b>教育研究の目的</b>	学際的な環境農学分野において、国際的視野を持ち、諸外国の文化を理解し、国際社会において指導的立場でイノベーションを起こすことのできる専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するために下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。																											
<b>教育研究分野</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;"><b>国際環境修復保全学</b></td> <td style="width: 33%; text-align: center;"><b>国際生物生産資源学</b></td> <td style="width: 33%; text-align: center;"><b>国際地域開発学</b></td> </tr> </table>	<b>国際環境修復保全学</b>	<b>国際生物生産資源学</b>	<b>国際地域開発学</b>																								
<b>国際環境修復保全学</b>	<b>国際生物生産資源学</b>	<b>国際地域開発学</b>																										
<b>内容</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">                     生物と人間の相互作用に留意しながら、地域の自然—農業生態系における環境劣化の実態分析、地域環境の修復手法の開発や保全計画の策定、環境に配慮した持続的な農業生産のための水の有効利用や土地の保全、地下水環境のモニタリング、土壌汚染防止等に関する研究を行う。                 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">                     国際的・地域的な見地から、現在有用な、また将来利用可能な生物資源の探索および生物的機能の分析を行う。さらに、地域の生物資源と生態環境を活かし、持続可能な生物生産技術を開発するための総合的な研究を行う。                 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">                     開発途上国・途上地域における農業・農村開発を中心とした持続可能な地域開発・社会計画を、技術的な側面を重視しつつ、かつ各地域の経済的・社会的・文化的な諸特性をも考慮する総合的かつ学際的な開発研究・援助研究を基礎に遂行することを目指す教育研究を行う。                 </td> </tr> </table>	生物と人間の相互作用に留意しながら、地域の自然—農業生態系における環境劣化の実態分析、地域環境の修復手法の開発や保全計画の策定、環境に配慮した持続的な農業生産のための水の有効利用や土地の保全、地下水環境のモニタリング、土壌汚染防止等に関する研究を行う。	国際的・地域的な見地から、現在有用な、また将来利用可能な生物資源の探索および生物的機能の分析を行う。さらに、地域の生物資源と生態環境を活かし、持続可能な生物生産技術を開発するための総合的な研究を行う。	開発途上国・途上地域における農業・農村開発を中心とした持続可能な地域開発・社会計画を、技術的な側面を重視しつつ、かつ各地域の経済的・社会的・文化的な諸特性をも考慮する総合的かつ学際的な開発研究・援助研究を基礎に遂行することを目指す教育研究を行う。																								
生物と人間の相互作用に留意しながら、地域の自然—農業生態系における環境劣化の実態分析、地域環境の修復手法の開発や保全計画の策定、環境に配慮した持続的な農業生産のための水の有効利用や土地の保全、地下水環境のモニタリング、土壌汚染防止等に関する研究を行う。	国際的・地域的な見地から、現在有用な、また将来利用可能な生物資源の探索および生物的機能の分析を行う。さらに、地域の生物資源と生態環境を活かし、持続可能な生物生産技術を開発するための総合的な研究を行う。	開発途上国・途上地域における農業・農村開発を中心とした持続可能な地域開発・社会計画を、技術的な側面を重視しつつ、かつ各地域の経済的・社会的・文化的な諸特性をも考慮する総合的かつ学際的な開発研究・援助研究を基礎に遂行することを目指す教育研究を行う。																										
<b>担当教員と研究内容</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">渡邊 裕純*4</td> <td style="width: 50%;">農薬等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">加藤 亮</td> <td>アジアにおける農業の水利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Julien Eric Stanislas BOULANGE</td> <td>水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">南光 一樹</td> <td>力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">岡崎 伸</td> <td style="width: 50%;">農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">森 美穂子</td> <td>植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">及川 洋征</td> <td>熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">小木曾映里</td> <td>国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">山田 祐彰</td> <td style="width: 50%;">開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">川端 良子</td> <td>乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">聶 海松</td> <td>持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">丸 健</td> <td>経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">渡邊 裕純*4</td> <td style="width: 50%;">農薬等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">加藤 亮</td> <td>アジアにおける農業の水利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Julien Eric Stanislas BOULANGE</td> <td>水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">南光 一樹</td> <td>力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。</td> </tr> </table>	渡邊 裕純*4	農薬等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。	加藤 亮	アジアにおける農業の水利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。	Julien Eric Stanislas BOULANGE	水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。	南光 一樹	力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">岡崎 伸</td> <td style="width: 50%;">農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">森 美穂子</td> <td>植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">及川 洋征</td> <td>熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">小木曾映里</td> <td>国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。</td> </tr> </table>	岡崎 伸	農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。	森 美穂子	植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。	及川 洋征	熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。	小木曾映里	国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">山田 祐彰</td> <td style="width: 50%;">開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">川端 良子</td> <td>乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">聶 海松</td> <td>持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">丸 健</td> <td>経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。</td> </tr> </table>	山田 祐彰	開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。	川端 良子	乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。	聶 海松	持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。	丸 健	経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">渡邊 裕純*4</td> <td style="width: 50%;">農薬等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">加藤 亮</td> <td>アジアにおける農業の水利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Julien Eric Stanislas BOULANGE</td> <td>水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">南光 一樹</td> <td>力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。</td> </tr> </table>	渡邊 裕純*4	農薬等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。	加藤 亮	アジアにおける農業の水利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。	Julien Eric Stanislas BOULANGE	水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。	南光 一樹	力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">岡崎 伸</td> <td style="width: 50%;">農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">森 美穂子</td> <td>植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">及川 洋征</td> <td>熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">小木曾映里</td> <td>国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。</td> </tr> </table>	岡崎 伸	農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。	森 美穂子	植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。	及川 洋征	熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。	小木曾映里	国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">山田 祐彰</td> <td style="width: 50%;">開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">川端 良子</td> <td>乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">聶 海松</td> <td>持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">丸 健</td> <td>経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。</td> </tr> </table>	山田 祐彰	開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。	川端 良子	乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。	聶 海松	持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。	丸 健	経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。		
渡邊 裕純*4	農薬等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。																											
加藤 亮	アジアにおける農業の水利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。																											
Julien Eric Stanislas BOULANGE	水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。																											
南光 一樹	力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。																											
岡崎 伸	農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。																											
森 美穂子	植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。																											
及川 洋征	熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。																											
小木曾映里	国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。																											
山田 祐彰	開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。																											
川端 良子	乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。																											
聶 海松	持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。																											
丸 健	経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。																											

\* 4 令和9年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

国際イノベーション農学コース						
プログラム	国際イノベーション農学プログラム					
教育研究分野	国際応用動物学					
内容	世界規模での動物繁殖技術・動物飼養技術を確立するため、動物生体の構造、機能、行動、進化について、分子生物学や遺伝学的な知識をもとに概説し、さらに国際感染症対策など、動物疾病に関わる化学物質や病原性微生物について、疾病の予防や治療、さらに公衆衛生に関連する知見について講義や討論を行う。					
担当教員と研究内容	佐藤 俊幸	動物の行動の適応的意義とメカニズムに関する研究	水谷 哲也	未来に出現する未知のウイルスの探索と予測「未来疫学」	福島 隆治	小動物における不整脈診断法と治療法の研究
	金田 正弘	エピジェネティクス変化による哺乳類の遺伝子発現制御機構に関する研究	古谷 哲也	人獣共通病原体を含む、人と動物の病原性ウイルスと原虫寄生虫の感染機構や治療・防御の研究	西藤 公司	哺乳動物に発症する皮膚疾患の病態・診断・治療に関する研究
	永岡謙太郎	生体の恒常性維持と破綻に関わる諸因子の総合的理解	大松 勉	家畜および野生動物を対象とした感染症の防疫に関する研究	田中 綾	循環器疾患の病態評価、治療法の検討
	山本 ゆき	哺乳動物の生理現象を制御する細胞機能の解明と応用	オブライエン 悠木子	哺乳類および鳥類に病原性を示す微生物による疾病の病態機序解明と診断・治療・予防法の開発	清水 美希	小動物整形外科疾患に対する画像診断法に関する研究
	佐々木一昭	動物における臨床薬物動態学	村越 ふみ	寄生虫の感染制御法の開発、感染機構の解明、分子疫学研究	岸本 海織	レントゲンやCTスキャンなどの放射線装置を利用した動物の体内構造の解明や、動物に負担が少ない新しい画像診断法の開発に関する研究
	鈴木 和彦	線維化とがんの発症機序	大場 真己	未来に出現する未知のウイルスの探索と予測	井手 香織	伴侶動物（犬・猫）の主に消化器系と造血管系疾患を対象に、病態解析から診断法や治療法の開発を目指す
	吉田 敏則	動物園動物、野生動物等における自然発生病変並びに病態モデル動物における分子病理学的研究	竹前 等	ハイスループットシーケンス技術を用いた新規ウイルスゲノムの探索とそれらウイルスの性状解析	島田香寿美	心血管疾患に対する新規診断・治療法の実験的検討と、その医療応用に向けた研究開発
	白井 達哉	病態制御機構の解明と新規治療法の探索	石原加奈子	病原性細菌および薬剤耐性菌の感染制御に関する研究	大森啓太郎	伴侶動物に発生する免疫介在性疾患の病態、診断、治療に関する研究
	村上 智亮	分野横断的アプローチによるアミロイドーシスの病態理解	田中 知己	家畜の繁殖障害の病態解明と新しい診断・治療・予防法の開発	菅上 大吾	動物における腫瘍細胞の増殖メカニズム解明および新規治療法の開発
			遠藤なつ美	産業動物の繁殖障害における内分泌メカニズムや防除法に関する研究	濱部 理奈	伴侶動物における腫瘍疾患と心血管疾患の相互関係の検討

## 2. 学位授与

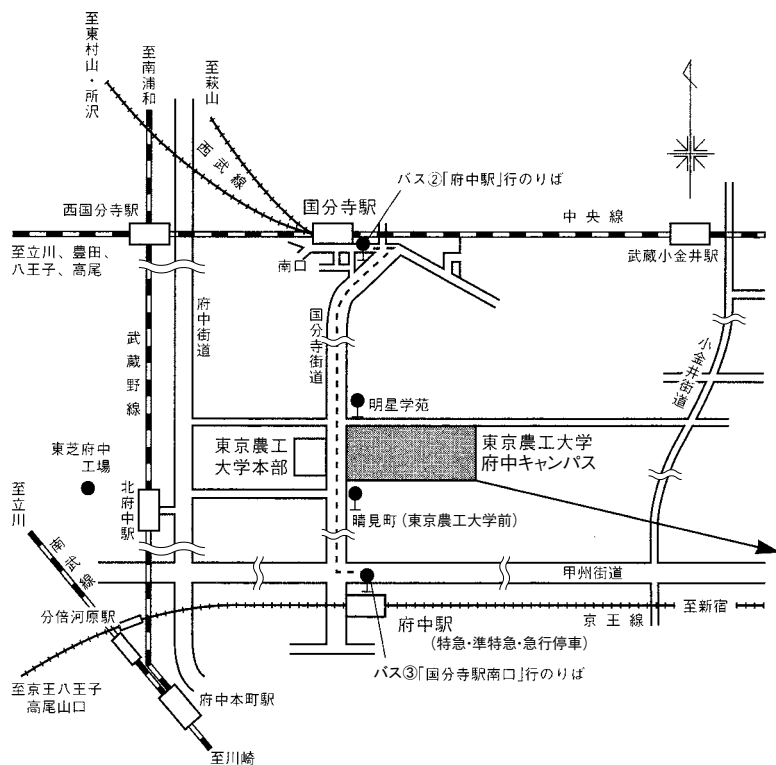
- (1) 本学大学院農学府修士課程に2年以上在学し、下記(2)に示す単位を修得し、かつ学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士（農学）または修士（学術）の学位を授与します。
- (2) 学生はプログラムごとに定められた必修科目及び選択科目の単位を合わせて30単位以上修得しなければなりません。

## 3. 本学大学院博士課程の概要

本学には、本学府と茨城大学及び宇都宮大学の修士課程農学研究科の教員が協力して教育・研究指導を行う東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程が設置されています。

また、本学には博士前期・後期課程の5年制の工学府並びに先進学際科学府が設置されています。

## 4. 交通案内



### 中央線

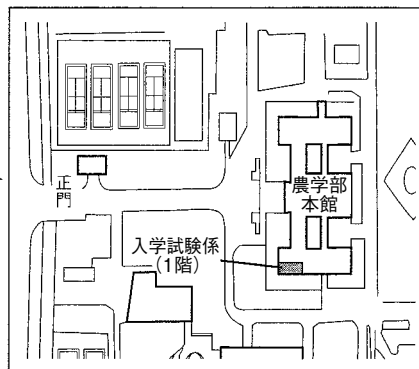
国分寺駅南口から（バス停2番乗場）  
府中駅行き（明星学苑経由）バスにて  
約10分、晴見町（東京農工大学前）下車

### 京王線

府中駅から（バス停3番乗場）国分寺  
駅南口行き（明星学苑経由）バスにて  
約7分、晴見町（東京農工大学前）下車

### 武蔵野線

北府中駅下車 徒歩約12分



〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係  
電話（直通）042-367-5659【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】

# 入学検定料払込用紙 [大学院農学府 修士課程用]

- ・本払込用紙に、志願者（ご依頼人）の住所・氏名（フリガナ）を記入のうえ、支払期限までに郵便局・ゆうちょ銀行窓口でお支払いください。
- ・右端の「振替払込受付証明書」を、入学検定料納付確認票に貼り付けて提出してください。（日附印のないものは無効）
- ・「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。

切り取ってご使用ください

00		払込取扱票									
口座番号		金額									
001208		30000									
001208		463426									
加入者	国立学校法人 東京農工大学										
通信欄	※ 2025年10月入学・2026年4月入学 入学検定料 東京農工大学 大学院農学府 修士課程 支払期限 2025年7月25日 出願資格(10)で出願する者の支払期限は、本学の指定する日。 必ず窓口で払い込み、ATM(現金自動預払機)は使用しないでください。										
ご依頼人	志願者住所(郵便番号) _____ ※ 志願者氏名(フリガナ) _____ 様 (電話番号) _____										
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号東第44194号)		日附印 備考									

振替払込請求書兼受領証										
口座記号番号										
001208										
463426										
加入者名	国立大学法人 東京農工大学									
金額	30000									
志願者氏名(フリガナ)	* _____ 様									
ご依頼人	_____ 様									
料金額	消費税込 日附印									
備考	円									

振替払込受付証明書(お客さま用)										
[大学提出用]										
(ご依頼人⇨郵便局・ゆうちょ銀行⇨ご依頼人)										
口座記号番号	001208-463426									
加入者名	国立大学法人 東京農工大学									
金額	30000									
ご依頼人住所氏名	* (志願者住所氏名)									
日附印	2025年10月入学・2026年4月入学 入学検定料 大学院農学府 修士課程									
日附印のないものは無効										
(承認番号東証第1247号)										

[大学院農学府 修士課程用]

各票の※印欄は、「ご依頼人」において記載してください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所を訂正印を押してください。

切り取らないで郵便局にお出しください。

SAMPLE

① 入学検定料は、必ずこの払込用紙を使用して郵便局・ゆうちょ銀行で払い込んでください。

② 払込の際に日附印を押印した「振替払込受付証明書」を受け取り、入学検定料納付確認票の指定欄に貼り付けて提出してください。

(注意)  
志願者住所、氏名欄に記入漏れがないか、郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が漏れていないか、確認の上提出してください。  
(記入漏れ、日附印のないものは無効となります。)

(ご注意)  
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。  
この用紙を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。  
・この用紙による、払込料金は、ご依頼様が負担することとなります。  
・ご依頼様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。  
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙  
3万円以上  
貼 付  
印

この場所には、何も記載しないでください。

2025年10月入学・2026年4月入学  
東京農工大学大学院農学府修士課程 入学志願票

Application Form for Entrance Examination to Master's Course (For Entrance October, 2025 or April, 2026)  
Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology

(注1) 予定入学年月 Expected Date of Admission	2025年10月・2026年4月 October, 2025・April, 2026	(注2) 受験番号 Application No.	※
筆答試験免除を <input type="checkbox"/> 志望する <input type="checkbox"/> 志望しない (食農情報工学コース 食農情報工学プログラムのみ)			
(注1) 選抜方法の区分 Selection Category	一般入試 General Selection	社会人特別選抜 Special Selection for Working Adults	
フリガナ 氏名 Name			男 Male ・ 女 Female
生年月日 Date of Birth	西暦	年 Year	月 Month 日 Day
志望プログラム Applying Program	Program of <span style="float: right;">プログラム</span>		
志望教育研究分野 Applying Field	Field of <span style="float: right;">教育研究分野</span>		
出願資格 Application Requirement	大学 University		
	学部 Faculty		
	学科 Department		
(Expected) Date of Graduation	西暦	年 Year	月 Month 卒業 (見込)
(Expected) Date awarded a bachelor's degree by National Institution for Academic Degrees and University Evaluation	西暦	年 Year	月 Month 独立行政法人大学評価・学位授与機構 (見込) の学位取得 (見込)
(Expected) Date awarded a bachelor's degree by National Institution for Academic Degrees and University Evaluation	) Month ( ) Year Bachelor of ( )		
(注3) 出願時に選択する専門科目 Specialized Subject Selected			
(注4) 志望する研究 主指導教員 Name of Preferred Main Supervisor			
現住所 Current Address	(〒 - )		
電話番号 Telephone No.	自宅 Home ( ) -	携帯 Mobile ( ) -	
E-mail			
(注5) 合格通知等連絡場所 Mailing Address for Notification of Admission	(〒 - )		
電話番号 Telephone No.	( ) -		

裏面の記入事項の注意をよく読んで記入してください。

Please refer to the back of this page, before filling this page.

- (注) 1. 該当する文字を○で囲んでください。
- (注) 2. ※印欄には記入しないでください。
- (注) 3. 「出願時に選択する専門科目」を記入するプログラムは、次のとおりです。  
生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、環境資源物質科学プログラム、  
地球社会学プログラム
- (注) 4. 「志望する研究主指導教員」欄について  
・各プログラムの担当教員（13～23ページ参照）から選んで記載してください。出願にあたっては志望する指導教員に連絡し、事前に承諾を得てください。ただし、\*2印の教員は記載できません。
- (注) 5. 本学からの通知等の送付先住所が現住所と異なる場合のみ記入して下さい。

- (注) 1. Circle around an applicable item.
- (注) 2. Do not fill in the section marked with ※.
- (注) 3. Fill the selected subject if you are applying for Science of Biological Production program, Bioregulation and Biointeraction program, Natural Resources and Ecomaterials program, Sustainable Society program.
- (注) 4. [Major academic supervisor]  
・ Select one supervisor from the list of supervisors in the applying program (see page 13~23). Contact a possible supervisor and discuss your study before you apply.  
Do not fill professor(s) marked with \*2.
- (注) 5. Specify only when your mailing address (for notification of admission) is different from your current address.

SAMPLE



2025年10月・2026年4月入学  
入学検定料納付確認票  
October, 2025・April, 2026 Entrance  
Entrance Examination Payment  
Confirmation Slip

(注)1 受験番号 Application No.	※
---------------------------------	---

東京農工大学大学院農学府修士課程用の「振替払込受付証明書」を貼りつけてください。

Affix "Postal Money Transfer Certificate" here.

(注意)

1. 日附印がないものは無効です。
2. 振替払込受付証明書の所定欄に志願者住所・氏名を必ず記入してください。
3. 受領証は大切に保管し、ここに添付してはいけません。
4. 納入された入学検定料は返還いたしません。

Note :

1. Certificate must be postmarked to be valid.
2. Ensure to fill in your name and address on the certificate.
3. Keep your copy of Proof of Money Transfer safe. DO NOT affix it here.
4. As a rule, there will be no refund on the paid examination fee.

(切り離さないでください)

2025年10月・2026年4月入学  
東京農工大学大学院農学府  
写真票  
October, 2025・April, 2026 Entrance  
Photograph Card  
Graduate School of Agriculture  
Tokyo University of Agriculture and Technology

写真 Photograph 縦4.5cm × 横3.5cm 出願前3ヶ月以内に撮影したもの。 (上半身、無帽、正面向き) Must be taken within 3 months prior to application. (Upper Body, Bare Head, Face Front)
---

(注)1 受験番号 Application No.	※
(注)2 予定入学年月 Expected Date of Admission	2025年10月・2026年4月 October, 2025・April 2026
フリガナ 氏名 Name	
志望プログラム Applying Program	プログラム Program
志望教育研究分野 Applying Field	教育研究分野 Field of Education Research Field

(切り離さないでください)

2025年10月・2026年4月入学  
東京農工大学大学院農学府  
受験票  
October, 2025・April, 2026 Entrance  
Examinee's Registration Card  
Graduate School of Agriculture  
Tokyo University of Agriculture and Technology

(注)1 受験番号 Application No.	※
(注)2 予定入学年月 Expected Date of dmission	2025年10月・2026年4月 October, 2025・April, 2026
フリガナ 氏名 Name	
生年月日 Date of Birth	西暦 年 月 日 Year Month Day
志望プログラム Applying Program	Program of プログラム Program
志望教育研究分野 Applying Field	Field of 教育研究分野 Field of Education Research
(注)3 出願時に選択する専門科目 Selected Specialized Subject Selected	
(注)4 志望する研究主指導教員 Name of Preferred Main Supervisor	
学力検査の際は必ず本票を机上においてください。 Place this card on your desk on the day of the exam.	

- (注) 1. ※印欄には記入しないでください。  
(注) 2. 該当する文字を○で囲んでください。  
(注) 3. 「出願時に選択する専門科目」を記入するプログラムは、次のとおりです。  
生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、環境資源物質科学プログラム、地球社会学プログラム  
(注) 4. 「志望する研究主指導教員」欄について  
・各プログラムの担当教員(13~23ページ参照)から選んで記載してください。ただし、\*2印の教員は記載することができません。  
・出願にあたっては志望する指導教員に連絡し、事前に承諾を得てください。

- (注) 1. Do not fill in the section marked with ※.  
(注) 2. Circle around an applicable item.  
(注) 3. Fill the selected subject if you are applying for Agricultural Production Sciences program, Bioregulation and Bio-interaction program, Natural Resources and Ecomaterials program, Sustainable Society program.  
(注) 4. [Major academic supervisor]  
・ Select one supervisor from the list of supervisors in the applying program (see page 13-23).  
・ Do not fill professor(s) marked with \* 2.  
・ Contact with possible supervisor and discuss about your study before you apply.

# 履歴書 Curriculum Vitae

フリガナ 氏名 Name		受験番号 Application No.	※
生年月日 Date of Birth	西暦 年 月 日 Year Month Day	本籍（都道府県名） Nationality	
現住所 Current Address	TEL - -		

学歴 Educational Background			
区分 Classification	学校名 Name of School	入学及び卒業年月（西暦） Year and Month of Entrance and Completion	修業年限 Required Years of Study
小学校 Elementary School		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	
中学 Junior High School		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	
高校 Senior High School		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	
大学 University (Undergraduate)		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	
大学院 Graduate School		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	
研究生 Research Student		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	
その他 Others		入学 From 年 月 year month	年 Years
		卒業 To 年 月 year month	

職歴 Work Experience		
勤務先名 Name of Organization	在職期間（西暦） Period of Employment	職種 Type of Work
	就職 From	
	退職 To	
	就職 From	
	退職 To	
	就職 From	
	退職 To	

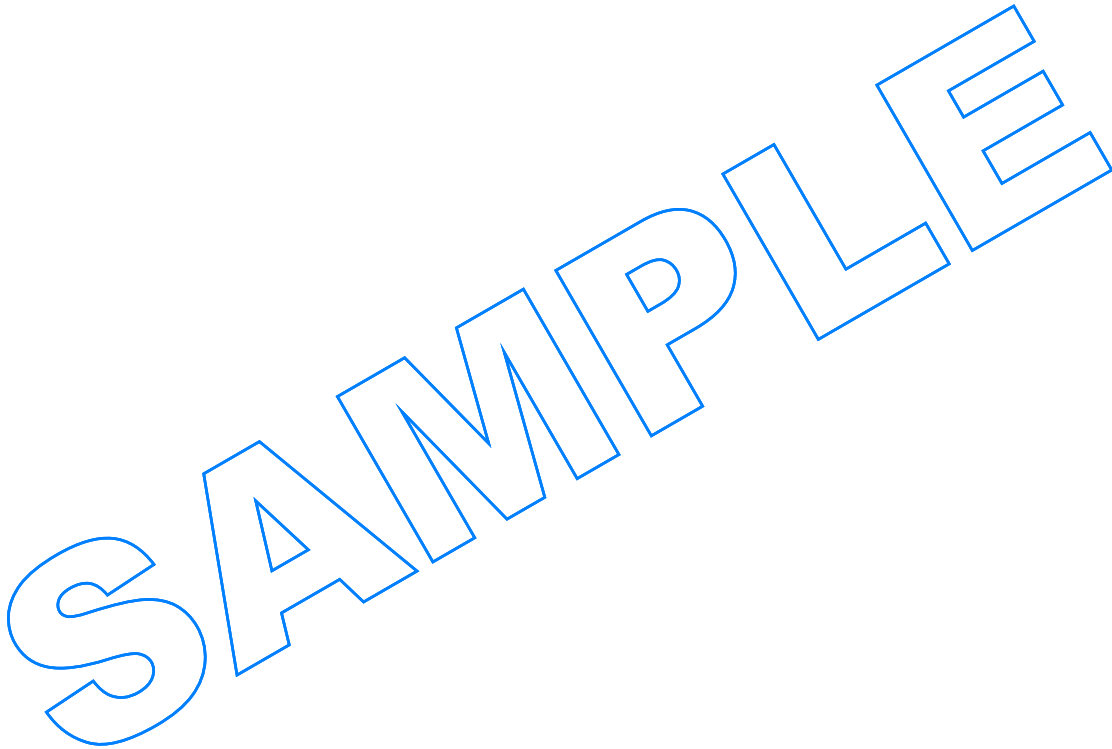
※の欄は、記入不要。

Do not fill in the section marked with ※.

SAMPLE

# 志望理由書

## Statement of Purpose

氏名 Name		受験番号 Application No.	※
志望プログラム Applying Program		志望教育研究分野 Applying Field	
			

字数は、1,000字程度。※の欄は、記入不要。

Write within 500 words.

Do not fill in the section marked with ※.

SAMPLE

# 研究計画書 Research Plan

(社会人特別選抜、  
出願資格(10)用)

氏名 Name		受験番号 Application No.	※
志望プログラム Applying Program		志望教育研究分野 Applying Field	
研究課題名 Research Topic			
研究目的・研究計画 Objectives of research and research plan			

SAMPLE

字数は、1,000字程度。※の欄は、記入不要。

Write within 500 words.

Do not fill in the section marked with ※.

SAMPLE

# 入学試験出願資格事前審査申請書

Application Form for Preliminary Authorization of Entrance Examination Qualification

東京農工大学大学院農学府長 殿  
To Dean of the Graduate School of Agriculture  
Tokyo University of Agriculture and Technology

貴大学大学院農学府博士課程に入学を志願するにあたり、事前審査を受けたく書類を添えて申請しますので、  
よろしくお願ひします。

I hereby submit documents required to apply for preliminary authorization of qualification for taking  
an entrance examination of master's course, Graduate School of Agriculture, Tokyo University of  
Agriculture and Technology.

フリガナ 氏名 Name		年 Year	月 Month	日 Day	写真 Photograph 縦4.5cm×横3.5cm
生年月日 Date of Birth	西暦	年 Year	月 Month	日 Day	出願前3ヶ月以内に撮影 したもの。 (上半身、無帽、正面向き)
(注)1 出願資格 Application Requirement		(9)	・	(10)	Must be taken within 3 months prior to application. (Upper Body, Bare Head, Face Front)
現住所 Current Address	(〒 - )	TEL ( ) -			
志望プログラム Applying Program		志望する研究主指導教員 Name of Preferred Main Supervisor			

(注) 1 該当する数字を○で囲んでください。

Circle around an applicable number.



SAMPLE

# 宛名票 Mailing Labels

- ・住所を変更した場合には、すみやかに届け出てください。
- ・※印欄は記入しないでください。
- ・「様」はなおさず、そのままにしておいてください。
- ・ You must report any changes in the mailing address to the admission office.
- ・ Do not fill in the section marked with ※ .

合格通知用

For Notification of Admission

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

住所 Address

Name

様

受験番号 Application No.	※
-------------------------	---

Telephone Number ( )

入学手続書類送付用

For Notification of Enrollment  
Procedure

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

住所 Address

Name

様

受験番号 Application No.	※
-------------------------	---

Telephone Number ( )

予備用

For Spare

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

住所 Address

Name

様

受験番号 Application No.	※
-------------------------	---

Telephone Number ( )